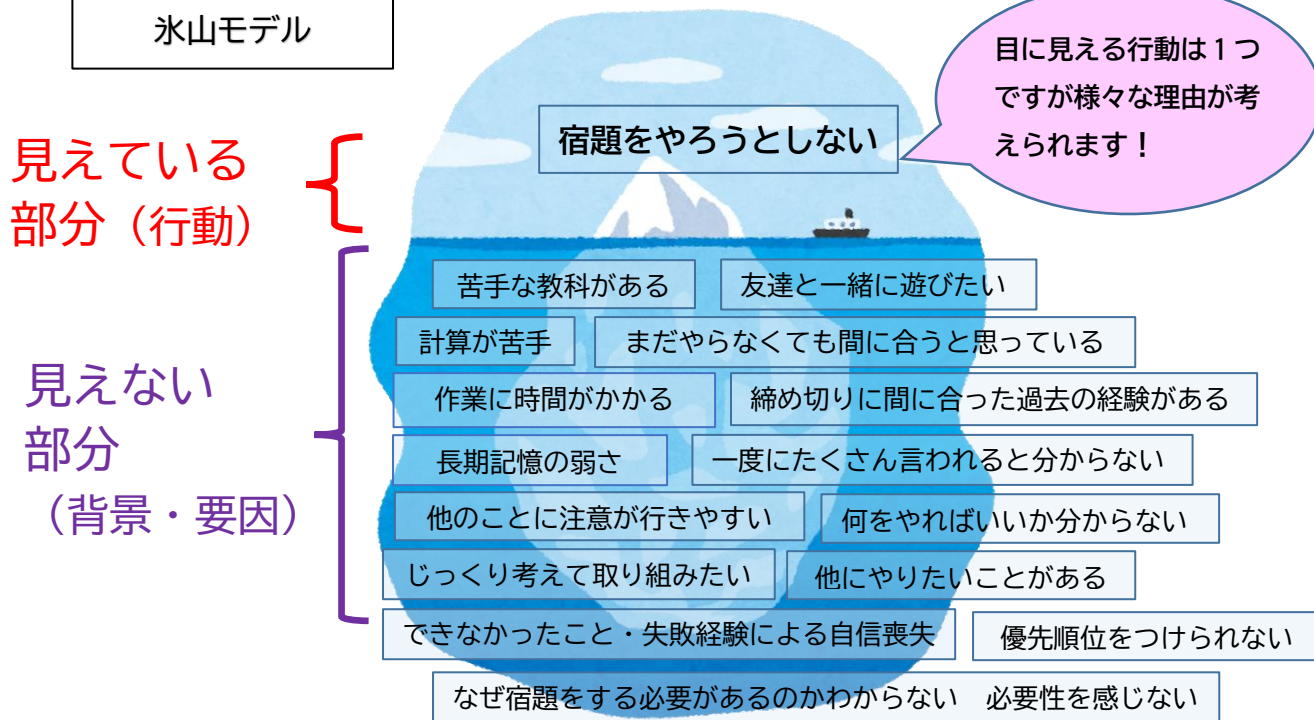


「冰山モデルで考える」とは？

本センターでは、子どもを理解するために「冰山モデル」で背景・要因を考えることを大切にしています。この冰山モデルについて、改めてお伝えします。（第18号にも掲載していますので是非ご覧ください）

<冰山モデルによる行動理解> 例：夏休みの宿題を行うように伝えても全くやろうとしない
 目に見える行動は、「宿題をやろうとしない」 / 目に見えない、その行動の背景・要因とは？



例えば、「計算が苦手だからやらない」お子さんと「何からやればいいのか優先順位をつけられない」お子さんでは、どのように対応するかは異なってきます。本人がどこにつまずいていて、どんな思いでいるのか理解していくことが、その先の対応（指導・支援）につながります。

本センターの相談においても、本人が何に困っているのか、どんな思いでいるのかについて、様子や表情、対話から「本人の思いを理解しようとする」ことを大事にしています。夏休み中の子どもの姿（夏休み明けの子どもたちの姿）をよく見て、理解するところからはじめてみませんか？

- 子どもたちの姿をよく見ることで行動の意味や背景・要因を探る
- ・どんなつまずきがあるのか？その背景・要因は何か？
 - ・本人は何がしたかったのか？
 - ・本人はどんな思いでいるのか？等を推察

具体的な指導・支援へ

この「冰山モデルによる行動理解」の内容について、
 本センターWeb上「学びの道標（みちしるべ）」から確認できます。⇒
 「気付くステップ（子ども理解）」に掲載しています。ぜひご覧ください。



2次元コード



動画、資料、手引があり、研修でも活用できます。